

はあもにいい

広域交流会を開催しました

平成29年2月14日(火)、埼玉県創造的異業種交流会、千葉県異業種交流融合化協議会及び東京異業種交流グループ連絡協議会の3都県合同で、JR 東日本大宮総合車両センターにて広域交流会を開催しました。

第1部 視察

視察に先立ち、埼玉県創造的異業種交流会 坂田静江会長より挨拶の後、さいたま市大宮区にある JR 東日本 大宮総合車両センター会議室にて、当社の担当者より資料を基に概要説明がなされました。

当社は、1894年(明治27年)に当時の日本鉄道(株)業務部汽車課として設立されて以来120年以上にも亘って、大宮の地において鉄道車両のメンテナンスや新造・改造を行っています。現在では、東京都品川区大井町にある東京総合車両センターと分担して、主に首都圏を走る車両の大規模なメンテナンスを行っております。通常は各車両センターに所属し定期検査を受けておりますが、約3年に1回の割合で大宮総合車両センターに「入場」し、2週間から1ヶ月程度かけて更に詳細な検査・修繕が行われ、当社では合計約2,000両の車両を担当し、年間約900両の生産能力を有しています。

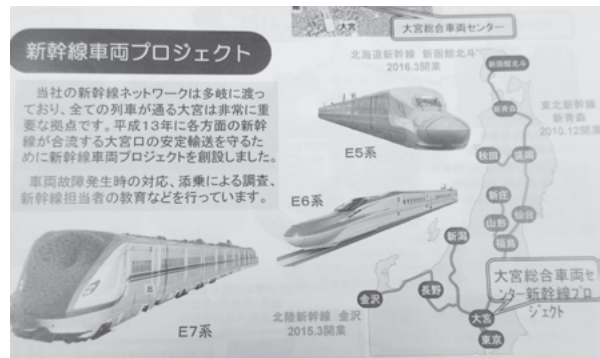
当社は、車両の検査・修繕を行うだけでなく、教育や研究にも力を入れています。当社の新幹線ネットワークは多岐に亘っており、全ての列車が通る大宮は非常に重要な拠点です。平成13年に各方面の新幹線が合流する大宮口の安定輸送を守るために、新幹線車両プロジェクトが創設され、新幹線車両故障発生時の対応、添乗による調査、新幹線担当者の教育なども行っています。

挨拶をする本会 坂田会長

他にも、台車、



説明風景



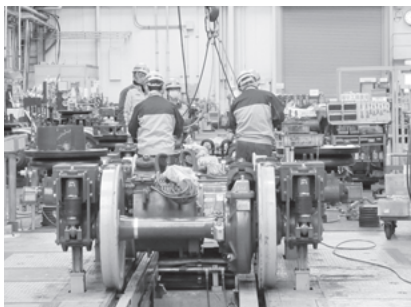
新幹線車両プロジェクト

輪軸は電車を構成する機器の中では安全上最も重要な部分のため、台車・輪軸技術センターを設置し、鉄道総研や JR 東日本研究開発センターなどと連携して、乗り心地の向上、各種状態の調査などのために、車内の振動測定、車輪の磨耗状態の調査などデータの集積、解析を行っています。そして、これまでの故障事例の原因究明、台車・輪軸の検査修理技術の向上、蓄積した技術の指導、普及などの取組みにつなげています。

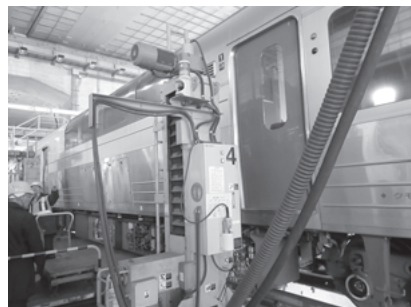
次に工場内へ移動し、車体と切り離された台車の検査・修繕部門へと案内され、台車を台枠と輪軸に解体し、モーターなども外して検査や修復を行う工程を紹介していただきました。続いて、車両の車体



修繕エリア



台枠をクレーンで吊り、輪軸に被せている様子



修繕準備中の待機車両



修繕後の車両点検を行う様子



試運転を行う様子



修繕中の C58-239号機 SL 銀河号

修繕部門へと移動し、車体部品の取替え、車体側面の溶接や各機器の動作の機能検査場、更に塗装場へと案内され、車体を均一に塗装する技術を見学しました。最後にJR 東日本管内のSL 修繕を全て大宮総合車両センターが担当しているという説明と共に、修繕中の「C58-239号機 SL 銀河号」を見学し、現役の最新車両からSLまでと、新旧の技術が混在し、鉄道車両技術の歴史が集約されている大宮総合車両センターでの視察研修は大変有意義に終了しました。

懇親会では、各異業種交流会の活動発表が行なわれ、各異業種交流会で実施している研修会や企業視察などの発表が活発に行なわれました。最後に、東京異業種交流グループ連絡協議会 会長 津屋 和夫氏より締めのご挨拶をいただき、盛会裏に終了しました。

第2部 交流懇親会

「東天紅 JACK 大宮店」において交流懇親会が開催されました。始めに、埼玉県創造的異業種交流会 坂田 静江会長が挨拶を述べ、続いて千葉県異業種交流融合化協議会 副会長 松延 俊美氏より乾杯のご発声をいただいた後、交流懇親会がスタートしました。



SL 銀河号の前で記念撮影

異業種交流大会を開催しました

平成29年3月14日(火)、「東天紅 JACK 大宮店」にて異業種交流大会を開催しました。



開会は
中央会 組合支援部 大久保部長より

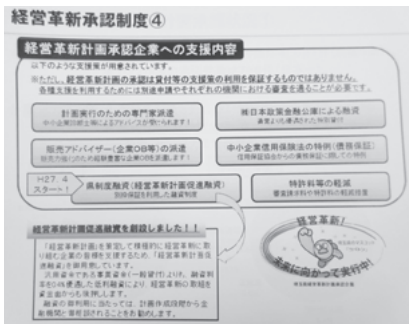


講演をする
埼玉県 産業労働部 石井主査

第1部 講演会

事務局が開会を宣し、埼玉県 産業労働部 産業支援課 主査 石井 順子氏を講師に迎え、「中小企業の経営力の向上を目指して～県内の経営革新計画の承認状況について～」をテーマに、次のような講演会が行われました。

まず、2016小規模企業白書のデータを用いて、小規模事業者の活動実



経営革新計画承認企業への支援内容



講演会風景

知名度が向上して問い合わせが増え、営業活動の際の話題提供に活用できます。さらに、経営革新計画は、新しい取組みをしたい、取引先等へのPRをしたい、事業承継を考えているといった企業に活用を勧めています。

また、経営革新計画の取組みは、各種補助金との親和性が高く、経営革新計画の事業計画書を補助金申請

書に転記できる部分が多くあり、経営革新計画の承認が加点対象となる点などが挙げられました。

なお、平成27年度の埼玉県経営革新計画承認状況は、766件で全国一位であり、製造業が最も多く、次いで卸売・小売業の申請が多く、組織形態としては、株式会社が最も多いですが、近年は個人事業主の割合が増えているとのことでした。

最後に具体的な経営革新計画の申請方法の説明があり、質疑応答が行われました。

第2部の交流懇親会では、講師の方も参加し、埼玉県創造的異業種交流会 坂田 静江会長、東洋大学 工業技術研究所所長 川口 英夫氏からご挨拶をいただき、埼玉県中小企業団体中央会 事務局 松村 和夫氏に乾杯のご発声をいただき、懇親会がスタート。参加者それぞれが名刺交換・情報交換を行うなど交流を図り、春日部市豊野工業団地協同組合 副理事長 矢野 泰三氏の挨拶をもって盛会裏に終了し、大変有意義な交流会となりました。

態と取組みについて解説がなされ、そこでは、経営計画を作成したことがある者は、作成したことがない者に比べて売上高の増加傾向が高いことや、若い世代ほど業績傾向が良く、また、積極的な経営活動をしているとグラフを基に説明されました。

次に、経営計画は、現状から将来の「あるべき姿」に到達するための道しるべで、自社の将来の目標を具体化し、それに到達するために必要なものであり、企業の経営力の向上を図るには、計画的に経営革新をし続けることが重要であるとのことでした。なお経営革新を行うには、新たな取組みにチャレンジしたい企業の事業計画書（経営計画）の作成を支援する制度である「経営革新承認制度」を活用することが好ましいとのことですが、新たな取組みとは、①新商品の開発又は生産、②新役務の開発又は提供、③商品の新たな生産又は販売の方式の導入、④役務の新たな提供の方式の導入、その他新たな事業活動などです。ですので、個々の中小企業者にとって新たな事業活動であれば、既に他社で採用されている技術・方式などであっても申請できるとのことでした。



挨拶をする
本会 坂田会長



挨拶をする東洋大学
工業技術研究所 川口所長



乾杯風景

◆埼玉県創造的異業種交流会の会員を募集しています◆

～新たなビジネスチャンスを探しませんか？～

本会は、異業種交流・融合化の更なる活性化を目的に、平成7年7月に発足しました。以来、各種研修会の開催、県内外の異業種グループとの交流、県内工科系大学の視察研修及び交流会等、幅広い活動を展開しております。

県内の異業種交流グループや異業種組合、県内に事業所を有する事業者、商工会議所・商工会や市町村、また、県内に事業所を有する金融機関等であれば、どなたでも入会できます。

異業種交流をお考えのグループ・組合の方、また、異業種交流に興味がある事業者の方は、是非一度、事務局（TEL：048-641-1315）までお問い合わせ下さい。

経営のバトンタッチのお悩みは
埼玉県事業引継ぎ支援センター
にご相談ください

「後継者がいない」「事業引継ぎに不安がある」
中小企業の皆様のご相談を事業引継ぎに関する専門家がお受けします。

Q 後継者がいなくて事業継続に不安を感じています。廃業しか途がないのでしょうか？

A 親族に後継者がいなくとも、M&Aによる第三者への事業承継や従業員への事業承継等、いろいろな形で事業を継続することができます。

Q M&Aってどういうものなのでしょうか？

A 事業の買収や合併のことをいいます。いろいろな方法がありますが、代表的なのはオーナー経営者の所有する株式を第三者に売却すること（株式譲渡）などをいいます。

Q 相談したいけど、変な噂がたつと困るのですが…

A 当センターでのご相談内容は秘密厳守で対応しています。また第三者への情報開示も、先方の譲受の意向がある程度確定するまでは、事業者名等相談者の方を特定するような情報は開示いたしません。

埼玉県事業引継ぎ支援センターとは、事業の存続に関する
様々な課題の解決を支援する公的な相談窓口です。

安心

当センターは国が運営する事業なので安心してご相談いただけます。

個別相談

ご相談はすべて無料。
お気軽にご相談ください。

秘密厳守

中小企業のM&A支援の実務に精通した専門家が秘密厳守で
ご相談を承ります。

お問い合わせ 埼玉県事業引継ぎ支援センター

後継者がいないなど、事業引継ぎについての ご相談がありましたら、
まずはご連絡ください。
相談日時等を調整させていただきます。

TEL 048-711-6326 FAX 048-711-6378
さいたま市浦和区高砂3-17-15 さいたま商工会議所会館4F
<http://www.saitamacci.or.jp/management/handing.asp>
E-mail: hikitsugi@saitamacci.or.jp